

第4次千代田区子ども読書活動推進計画（素案）に対するご意見の概要と区の考え方

No.	在住等の区分	ご意見（概要）	区の考え方
1	在住	子ども読書活動推進計画は、将来を担う子どもたちを育成する上でも大変意義のある施策だと思う。 私も子どもの頃に親から絵本や子ども用の本を買ってもらい、大切に熟読した記憶があり、それが呼び水となって小学校の図書館からよく本を借りて読んだ。 今回の施策も、それぞれ実施するにあたって、呼び水としてまず子どもたちに「自分用」の本をプレゼントしてはどうか。本当は新刊書を購入して配布するのがベストだが、予算が限られている場合は区内の小中学校の生徒や父兄等に読み終えた本の寄付を呼びかけて、希望する子どもの家庭に配る方法もある。このような本の収集や整理、配布の作業なら応募するボランティアも多いのではないかと。クリスマスや正月、ひな祭り、七夕等のタイミングで実施されれば効果的だと思う。	第3章「第4次計画における主な取組み」へのご意見として受け止めさせていただきます。 子どもたちへの本の配布事業として、千代田図書館では、千代田保健所で実施している毎月の3～4か月児健診を利用し、司書おすすめの絵本が入った「ブックスタートパック」を配布しています。 また、図書館で寄贈を受けたり除籍したりした本を区内の保育園、幼稚園、こども園、児童館等へリサイクル本として提供しています。 ご意見いただいた読み終えた本の配布につきましては、今後の子ども読書事業の参考とさせていただきます。
2	在住	児童生徒に対して読書を推進する上で、読者環境の整備を進めることは有意義である。 しかし、その前に、子どもたちに振り向かせ、「いかに読書に興味を持たせるか」を考えることが必要であり、子どもたちがそれぞれ自分事として読書に向き合える糸口を見つけられる企画を考える必要がある。 1. 書籍に対する書評の活用 書店や図書館などで、おすすめ図書に短い書評が貼付されていることがある。その短いコメントに興味をそそられ、思わず手が出てしまう。 2. 情報誌の活用 岩波書店の「図書」、筑摩書房の「ちくま」、新潮社の「波」には、新刊書の紹介を含め読み応えのある記事が多く、いきなり単行本、新書や文庫を読み始めるより敷居が低いのではと思う。 3. 神保町古書店巡り 神保町界隈には、多くの古書店がそれぞれの専門分野に分かれ営業を続けており、個性的な古書店で話を聞くことにより、古書の魅力に気付く。	第3章「第4次計画における主な取組み」へのご意見として受け止めさせていただきます。 1. 区立図書館では、職員おすすめ本の紹介や、職員による直筆の本の紹介コメント文の貼付などを行っており、貸出促進の一助となっています。 2. 区立図書館では、ご提示いただいた読書情報誌のほか、「本の雑誌」「ダ・ヴィンチ」などを所蔵しています。また、千代田図書館の「出版にまつわる本棚」では、各出版社の出版情報のPR誌や、出版関係の専門紙など約20タイトルを、バックナンバー含め常時閲覧できるようにしています。 いただいたご意見は、今後の子ども読書事業の参考とさせていただきます。 3. 千代田図書館では、古書店に立ち寄る「神保町街あるきツアー」の実施や図書館公式YouTubeを通じた古書店の紹介等を行っています。 どちらも多くの方に関心をもっていただいておりますが、基本方針④「身近な大人への読書に対する意識啓発と広報の推進」に関連する取組みの中で、今後は若年層も含め、積極的な周知を図ってまいります。

No.	在住等の区分	ご意見（概要）	区の考え方
3	在住	小中高生と保護者および彼らを取り巻く社会の課題も視野に、現状分析と課題抽出をしてみたいかがか。SNSやゲームの時間が多い、中学受験の激化、幼児～小学校低学年では保護者が多忙で、読み聞かせの時間が捻出できない、なども検討材料になるかと思う。 各世代ごとに何をするか、という取組みも必要だが、俯瞰して根本的な課題を見つけることも必要ではないか。	第1章3「千代田区の現状」へのご意見として受け止めさせていただきます。 世代ごとだけではなく、俯瞰して根本的な課題を見つけることも必要であるというご意見につきましては、引き続き子ども読書活動推進会議の中で課題確認を行っていく上での参考とさせていただきます。
4	在住	各アンケートと課題設定に主観的要素が強い印象である。 例えば素案の10ページ「②後期課程生徒調査」のアンケート結果を踏まえた課題が「多忙」となっている。しかし本当にそれが原因なのかはわからない。 11ページも「デジタル技術の活用で読書環境を充実させる」とあるが、本素案を読む限りそれで読書する人や量が増えるかどうかは不明である。 先行研究や他自治体および他国の事例をベースにするなど、根拠をはっきりさせた対策を考えてほしい。	本計画の策定にあたり、毎年度実施している「千代田区子ども読書調査」のほか、令和6年度には高校生や保護者の意見を聴取するためのアンケート調査を新たに実施しました。それら調査結果を基に、子ども読書活動推進会議での議論を踏まえ、千代田区としての課題を分析しました。なお、アンケート調査結果の詳細は、区ホームページの「千代田区子ども読書調査」「千代田区子ども読書活動推進会議」からご確認いただけます。 いただいたご意見は、引き続き子ども読書活動推進会議の中で課題確認を行っていく上での参考とさせていただきます。
5	在住	素案の12ページに図書館の利用状況と利用目的、および課題の記述がある。 提案として、読書や図書館に興味がない人にも情報を届けることが有効ではないかと思う。他の自治体では、広報誌に固定の枠を設け、今月の新刊紹介や図書館イベントの案内をしているところもある。そのように、受け身の人にも情報が届く機会を一層強化するのはいかがか。	読書や図書館に興味がない人にも情報を届けることが有効であることは、いただいたご意見のとおりと考えます。 第3章「第4次計画における主な取組み」の中で、千代田区公式LINEと連携した情報発信を記載しておりますが、それ以外にもより良い情報発信の方法を検討してまいります。
6	在住	未就学児、小学生を育てている保護者の立場より意見を述べさせていただく。 乳児期、自宅にて保育していた期間は児童館をよく利用していた。幼児室には絵本コーナーもあるが量も種類も充実しているとは言えない。そこで、もう少し図書数を増やす、図書館の本を配本するなどの拡充を図ると、乳幼児期に多くの本に接する良い機会となるのではないかと考える。 また、学童クラブとも連携を図ると良いのではないか。特に1～2年生の低学年時期や、夏休み期間中はクラブの滞在時間も長く、推薦図書を配本したり、指導員の方にも担い手として読書の後押しをしていただくなどの活動も有効ではないかと思う。	第2章6「施策の担い手」へのご意見として受け止めさせていただきます。 図書館と児童館との連携につきましては、図書館で寄贈を受けたり除籍したりした本を区内の保育園、幼稚園、こども園、児童館等へリサイクル本として提供しているほか、児童館から要望があれば図書館資料の団体貸出を行っています。 いただいたご意見につきましては、児童館や学童クラブの所管部署と共有させていただきます。

No.	在住等の区分	ご意見（概要）	区の考え方
7	在住	素案の21ページ、「ボランティアなど人材の育成・活用」について。読み聞かせなどのボランティアが社会に役立つ価値ある活動であると広まっていないように思う。読み聞かせボランティアの募集を見たことがない。 ボランティア団体に所属していないと読み聞かせボランティアができないのではなく、広く区民にボランティアを募る仕組みを作ってほしい。	読み聞かせボランティアの育成のため、区立図書館では「読み聞かせボランティア講座」を実施していますが、ボランティアの募集方法やその活用の仕組みについては、ご意見いただいたとおり、課題として認識しております。 いただいたご意見につきましては、今後のボランティア活用方法の参考とさせていただきます。